

# I 調査結果の概要

## 1 農業経営収支の動向（農家1戸当たり）（図1、表1参照）

### (1) 野菜作経営

全国の農業粗収益は露地野菜作経営が427万円で、前年に比べて3.4%減少し、施設野菜作経営は892万円で2.7%減少した。

これは、野菜価格が主に台風等の影響により高騰した前年と比べて、低下したことによる。

農業経営費は、露地野菜作が254万円で3.2%増加し、施設野菜作が517万円で1.9%増加した。

これは、露地野菜作は原油価格の高騰により光熱動力費が増加したことに加えて、輸入原材料価格の上昇等により肥料費が増加したことによる。施設野菜作は、作付面積の減少から光熱動力費を除く各費目で減少したものの、光熱動力費が原油価格の高騰により16.0%増加したことによる。

この結果、これら農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は、露地野菜作が173万円で11.7%減少し、施設野菜作が375万円で8.4%減少した。

### (2) 果樹作経営

全国の農業粗収益は437万円で、前年に比べて1.3%減少した。

これは、台風等の影響を受けた前年に比べて、主な果樹の生産量は増加したものの、価格が低下したことによる。

一方、農業経営費は267万円で2.7%増加した。

これは、原油価格の高騰により光熱動力費が増加したことに加えて、肥料費が増加したこと等による。

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は170万円で7.0%減少した。

### (3) 花き作経営

全国の農業粗収益は露地花き作経営が593万円で、前年に比べて8.2%減少し、施設花き作経営は1,209万円で2.5%減少した。

これは、価格が低下したこと等による。

農業経営費は、露地花き作が325万円で3.3%減少し、施設花き作は825万円で3.1%増加した。

これは、露地花き作は原油価格の高騰により光熱動力費等が増加したものの、作付面積の減少に伴い資材の使用量等が減少したことによる。一方、施設花き作は光熱動力費が大きく増加したことによる。

この結果、これら農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は、露地花き作が269万円で13.5%減少し、施設花き作が384万円で12.8%減少した。

図1 野菜作・果樹作・花き作経営の農業経営収支(全国・1戸当たり)

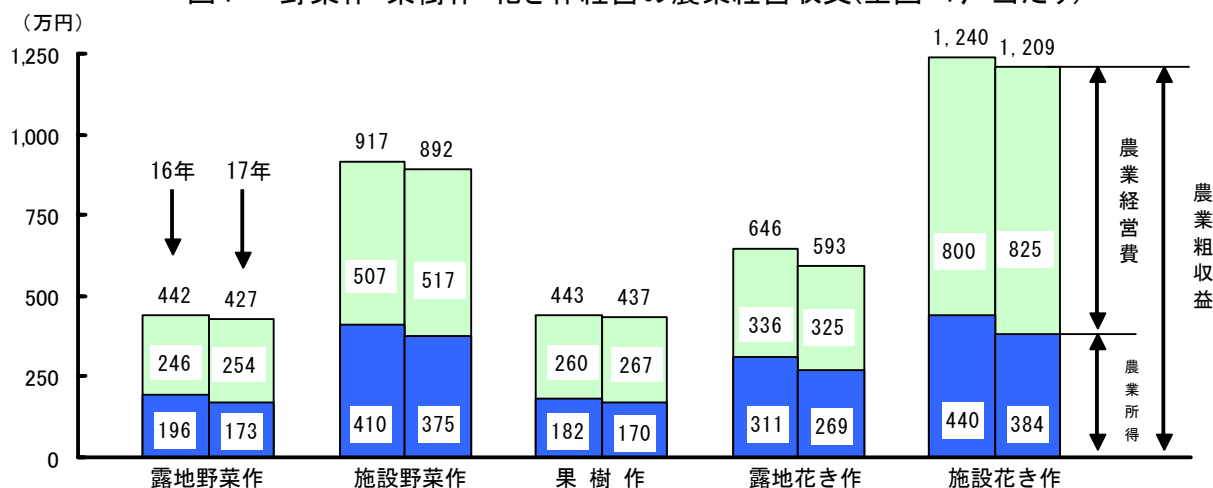


表1 野菜作・果樹作・花き作経営の動向(全国・1戸当たり)

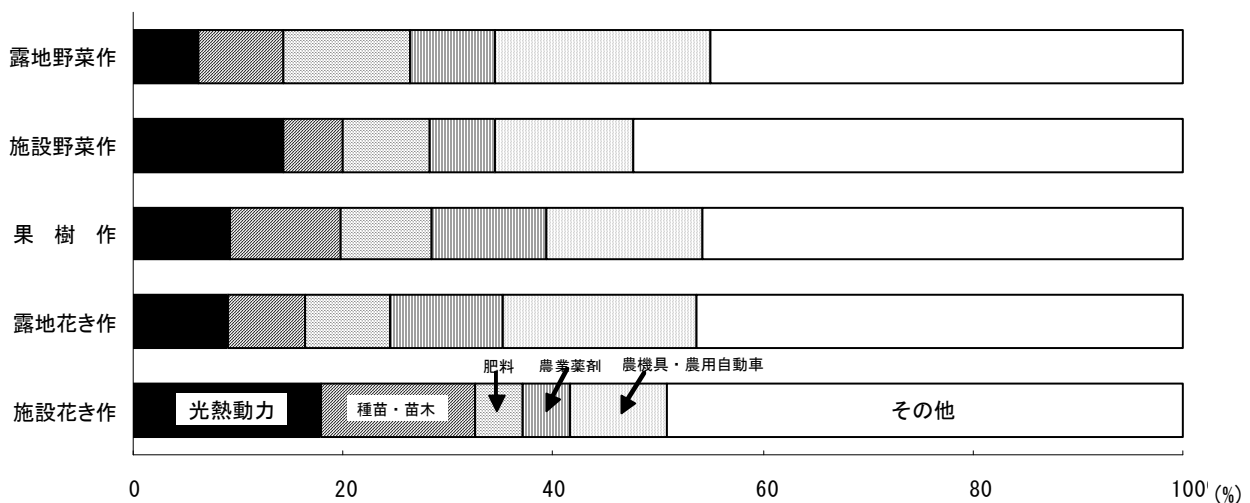
区 分	露地野菜作		施設野菜作		果 樹 作		露地花き作		施設花き作	
	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率	金 額	対前年 増減率
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
<b>農 業 粗 収 益</b>	<b>4 268</b>	<b>△ 3.4</b>	<b>8 919</b>	<b>△ 2.7</b>	<b>4 367</b>	<b>△ 1.3</b>	<b>5 932</b>	<b>△ 8.2</b>	<b>12 086</b>	<b>△ 2.5</b>
(野菜作)										
野菜収入	3 196	△ 3.6	7 263	△ 1.2	-	-	-	-	-	-
露地野菜	3 007	△ 3.8	451	△ 4.7	-	-	-	-	-	-
施設野菜	189	△ 0.5	6 812	△ 1.0	-	-	-	-	-	-
(果樹作)										
果樹収入	-	-	-	-	3 641	△ 2.5	-	-	-	-
(花き作)										
花き収入	-	-	-	-	-	-	4 984	△ 8.8	10 835	△ 2.9
露地花き	-	-	-	-	-	-	4 579	△ 9.0	373	3.0
施設花き	-	-	-	-	-	-	405	△ 6.9	10 462	△ 3.1
<b>農 業 経 営 費</b>	<b>2 540</b>	<b>3.2</b>	<b>5 166</b>	<b>1.9</b>	<b>2 671</b>	<b>2.7</b>	<b>3 245</b>	<b>△ 3.3</b>	<b>8 247</b>	<b>3.1</b>
種 苗 ・ 苗 木	206	1.0	287	△ 1.4	280	1.4	238	△ 0.8	1 209	0.4
肥 料	308	3.0	435	△ 3.1	233	5.9	263	△ 8.4	363	0.3
農 業 薬 剤	204	△ 0.5	319	△ 4.2	294	2.4	344	△ 2.5	373	△ 2.1
光 熱 動 力	157	11.3	741	16.0	246	10.8	295	12.6	1 482	16.8
農 機 具 ・ 農 用 自 動 車	523	1.2	680	△ 2.3	396	1.5	599	△ 2.9	760	△ 3.9
<b>農 業 所 得</b>	<b>1 728</b>	<b>△ 11.7</b>	<b>3 753</b>	<b>△ 8.4</b>	<b>1 696</b>	<b>△ 7.0</b>	<b>2 687</b>	<b>△ 13.5</b>	<b>3 839</b>	<b>△ 12.8</b>
概況										
農業経営関与者数(人)	2.25	△ 1.3	2.55	1.2	2.26	△ 1.3	2.36	△ 1.7	2.68	0.0
経営耕地面積(a)	175	1.7	203	△ 6.0	151	3.4	164	△ 1.2	149	4.2
(野菜作)										
野菜作作付延べ	82	3.8	56	△ 1.8	-	-	-	-	-	-
露地野菜(a)	80	3.9	17	△ 5.6	-	-	-	-	-	-
施設野菜(m <sup>2</sup> )	248	21.0	3 895	△ 1.2	-	-	-	-	-	-
(果樹作)										
果樹植栽面積(a)	-	-	-	-	89	0.0	-	-	-	-
(花き作)										
花き作作付延べ	-	-	-	-	-	-	77	△ 7.2	46	△ 2.1
露地花き(a)	-	-	-	-	-	-	74	△ 6.3	7	0.0
施設花き(m <sup>2</sup> )	-	-	-	-	-	-	345	△ 8.7	3 896	△ 2.9
自営農業労働時間(時間)	2 840	△ 2.0	5 091	△ 0.4	2 880	1.2	3 965	△ 5.6	5 861	0.2

## 2 営農類型別にみた光熱動力費増加の影響

各営農類型別結果の特徴的な動向として、原油価格の高騰に伴い、光熱動力費が前年に比べて大きく増加していることが挙げられる。

これを各営農類型別に農業経営費に占める光熱動力費の割合で見ると、露地野菜作、果樹作及び露地花き作は1割に満たないのに対し、施設野菜作及び施設花き作では、温室施設を加温するために重油や灯油を多く使用していることから、農業経営費全体の2割近くを占めている。(図2参照)

図2 営農類型別にみた農業経営費の構成割合(全国・1戸当たり)



また、これら重油や灯油は、最近の石油製品価格の高騰の中でも特に大幅な価格の上昇を示していることから、施設野菜作及び施設花き作における光熱動力費の対前年増加率はともに16%台と、他の営農類型よりも大幅な増加率となっている。

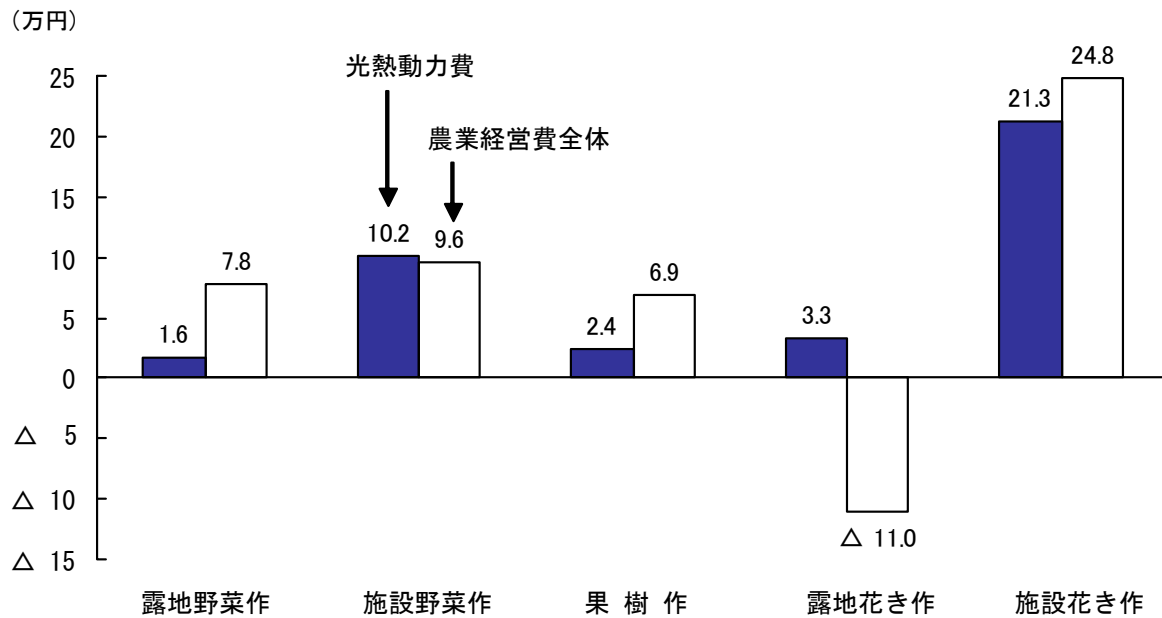
この結果、光熱動力費の前年からの増加額は、露地野菜作、果樹作及び露地花き作は2~3万円台であるのに対し、施設野菜作では10万円、施設花き作では21万円となり、それぞれ農業経営費の増加額とほぼ同額となっている。(表2、図3参照)

表2 営農類型別にみた農業経営費と光熱動力費の動向(全国・1戸当たり)

単位：千円

区分	露地野菜作		施設野菜作		果樹作		露地花き作		施設花き作	
	農業経営費	光熱動力費	農業経営費	光熱動力費	農業経営費	光熱動力費	農業経営費	光熱動力費	農業経営費	光熱動力費
平成17年	2,540	157	5,166	741	2,671	246	3,245	295	8,247	1,482
16年	2,462	141	5,070	639	2,602	222	3,355	262	7,999	1,269
対前年増減額	78	16	96	102	69	24	△110	33	248	213
対前年増減率(%)	3.2	11.3	1.9	16.0	2.7	10.8	△3.3	12.6	3.1	16.8

図3 営農類型別にみた農業経営費と光熱動力費の対前年増減額(全国・1戸当たり)



### 3 部門別収支の概要

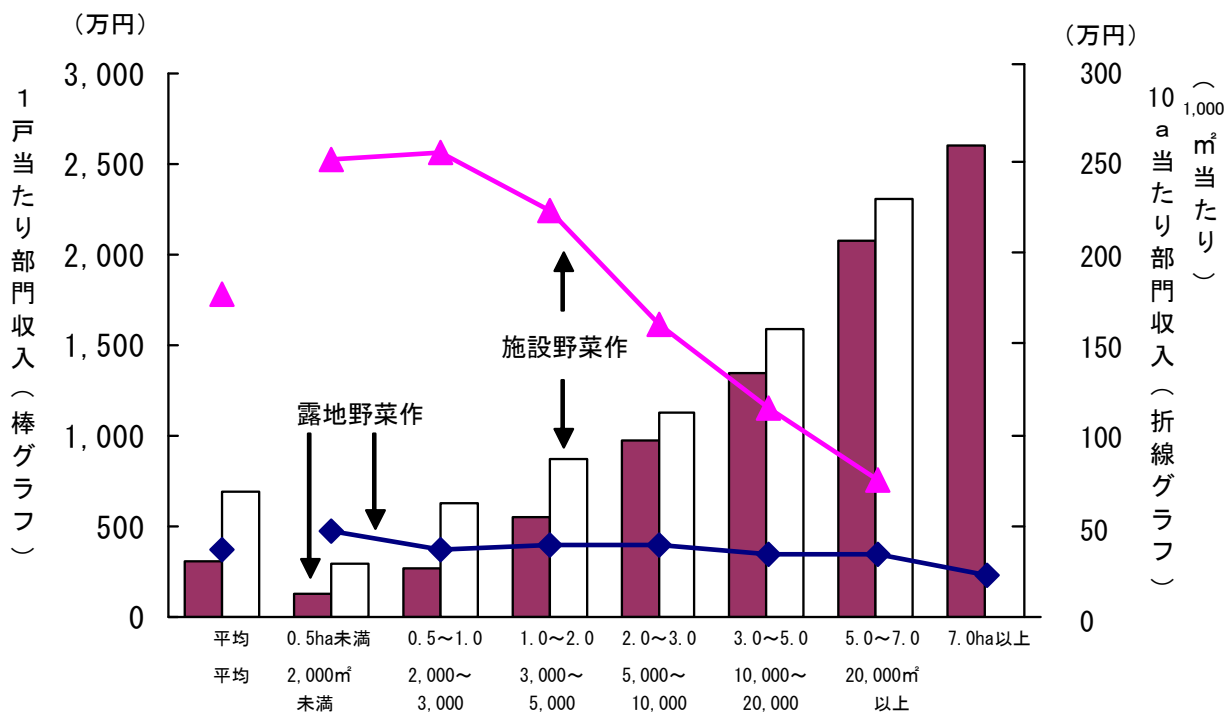
#### (1) 野菜作経営（露地野菜作部門及び施設野菜作部門）（図4、図5参照）

露地野菜作経営の露地野菜作部門収入（以下「露地収入」という。）と施設野菜作経営の施設野菜作部門収入（以下「施設収入」という。）について、1戸当たりで比較すると、露地収入が309万円、施設収入が693万円となっており、これを該当部門作付面積10a当たり（施設は1,000㎡当たり）で見ると、露地収入が39万円であるのに対し、施設収入は178万円となっている。

露地及び施設野菜作部門を部門作付面積規模別にみると、両部門の1戸当たり部門収入は作付規模が大きくなるに伴い増加するが、10a当たりでは、規模が大きくなるに伴いおおむね減少し、特に施設収入では20,000㎡以上の階層は2,000㎡未満の階層の3割の水準となっている。また、該当部門労働1時間当たり収入で見ると、規模が大きくなるほど増加している。これは、経営規模が大きいほど労働力とのバランスから労働生産性の高い品目の作付割合が高まり、両部門共に作付規模が大きくなるに伴い該当部門作付面積10a当たり農業労働時間が大きく減少していることによる。

なお、これらを部門所得で見てもおおむね同様の傾向を示している。

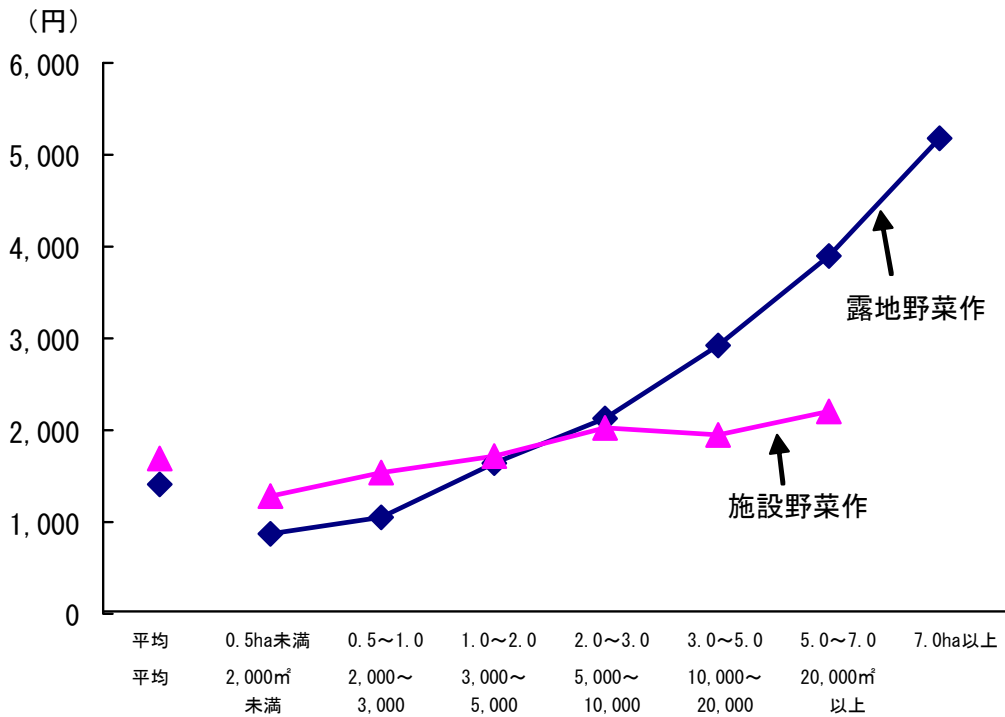
図4 部門作付面積規模別にみた部門収入（全国）



注：規模階層区分は上段が露地野菜作、下段が施設野菜作である。

折線グラフにおいて露地野菜作は10a当たり、施設野菜作は1,000㎡当たりである。

図5 部門作付面積規模別にみた労働1時間当たり部門収入（全国）



注：規模階層区分は上段が露地野菜作、下段が施設野菜作である。

(2) 果樹作経営（りんご作部門、みかん作部門、ぶどう作部門、なし作部門及びもも作部門）（図6、図7参照）

果樹作経営の部門収入及び所得について、部門植栽面積10a当たりで比較すると、ぶどう作部門が部門収入及び所得ともに最も多く、もも作部門、なし作部門でも多くなっている一方、りんご作部門は部門収入で、みかん作部門は部門所得でそれぞれ最も少なくなっている。

これを、該当部門労働1時間当たり部門収入（労働生産性）で見ると、もも作部門が1,890円と最も多く、植栽面積10a当たり部門収入で最も多かったぶどう作部門はみかん作部門に次いで3位となっている。これは、最も少ないもも作部門労働時間(1,258時間)と比べて、ぶどう作部門(2,204時間)は1.8倍の水準にあり、より多くの労働を要するためである。

また、植栽面積規模別に各部門の労働1時間当たり部門収入をみると、各部門ともに規模が大きくなるに伴いおおむね労働生産性が向上し、増加している。

図6 果樹作の部門別収支（全国）

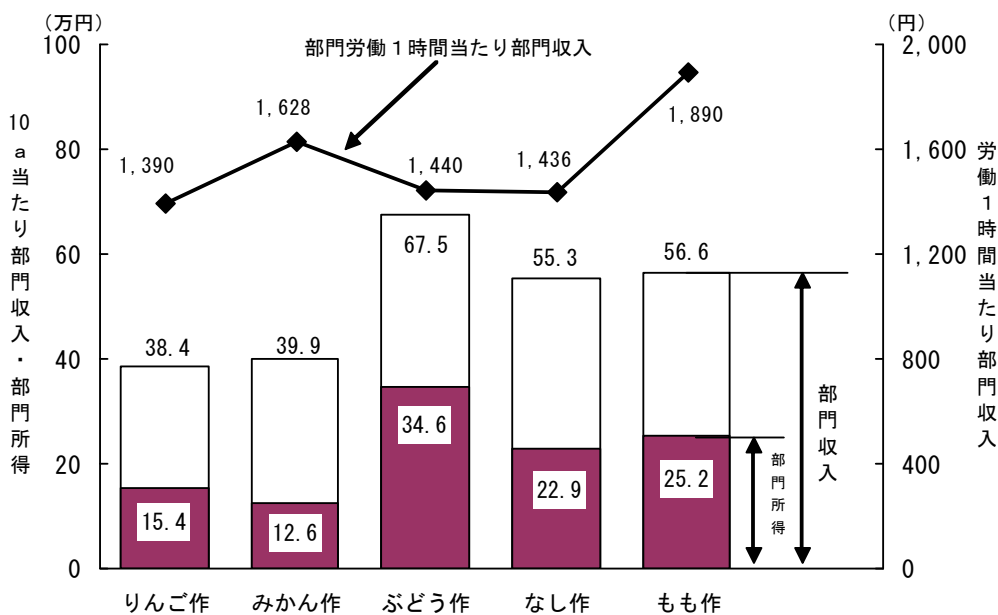
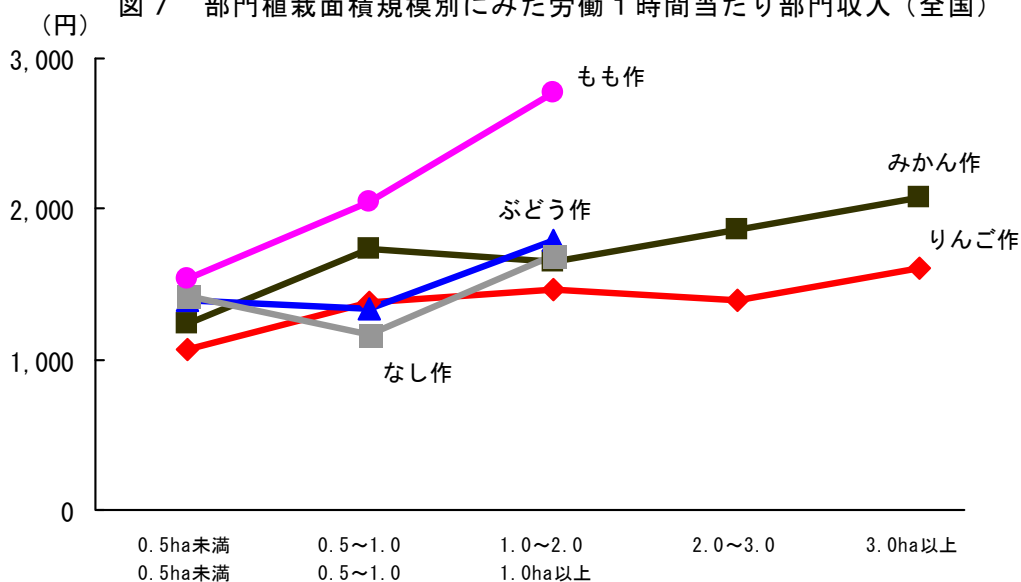


図7 部門植栽面積規模別にみた労働1時間当たり部門収入（全国）



注： 規模階層区分は、上段がりんご作及びみかん作、下段がぶどう作、なし作及びもも作である。

(3) 花き作経営（露地花き作部門及び施設花き作部門）（図8、図9参照）

露地花き作経営の露地花き作部門収入（以下「露地収入」という。）と施設花き作経営の施設花き作部門収入（以下「施設収入」という。）について、1戸当たりで比較すると、露地収入が461万円、施設収入が1,051万円となっており、これを該当部門作付面積10a当たり（施設は1,000㎡当たり）で見ると、露地収入が62万円であるのに対し、施設収入は270万円となっている。

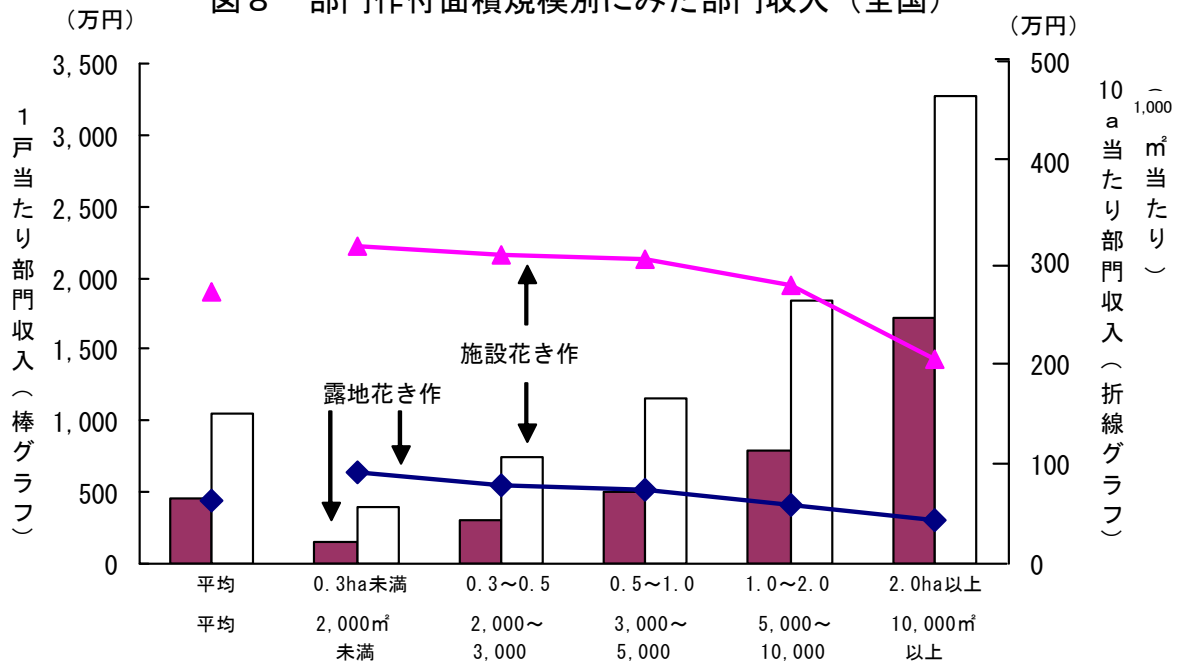
露地及び施設花き作部門を部門作付面積規模別にみると、両部門の1戸当たり部門収入は作付規模が大きくなるに伴い増加するが、10a当たりでは、規模が大きくなるに伴い減少し、特に露地花き作経営の2.0ha以上の階層は43万円で、0.3ha未満の階層の約5割の水準、施設花き作経営の10,000㎡以上の階層は203万円で、2,000㎡未満の階層の約6割の水準となっている。



また、該当部門労働1時間当たり収入でみると、規模が大きくなるに伴い増加している。これは、野菜作経営と同様に経営規模が大きいほど労働力とのバランスから労働生産性の高い品目の作付割合が高まり、両部門ともに規模が大きくなるに伴い該当部門作付面積10a当たり農業労働時間が大きく減少していることによる。

なお、これらを部門所得でみてもおおむね同様の傾向を示している。

図8 部門作付面積規模別にみた部門収入（全国）



注：規模階層区分は、上段が露地花き作、下段が施設花き作である。（以下の図9において同じ。）  
折線グラフにおいて露地野菜作は10a当たり、施設野菜作は1,000㎡当たりである。

図9 部門作付面積規模別にみた労働1時間当たり部門収入（全国）

